

- 活性の火 開催への想い -

活性の火実行委員会 委員長杉村からご挨拶

活性の火実行委員会、代表の杉村 原生（スギムラ ゲンキ）と申します。

私は、JR 苫小牧駅前エリアを会場とし、中心市街地活性化を目的とした入場無料の音楽フェスティバル「活性の火」を、2014 年より開催しています。今年は記念すべき開催 10 周年であり、たくさんの地元企業、飲食店、市民の皆様やご来場者様から多大なる応援をいただきながら、今日に至るまで開催を継続することができました。

苫小牧には夏の「とまこまい港まつり」や「樽前神社祭り」がありますが、現在ではこの「活性の火」も一定の認知度を得た地域の夏の風物詩としてご認識いただけているかと捉えております。

今回の 10 回目を飾る開催も無事成功に収め、今後の開催継続とイベントの更なる成長につながる機会とするべく、現在準備を進めているところです。

活性の火を続ける理由

私は苫小牧駅前通り沿いにあるライブハウス「ELLCUBE」の運営を始め、他の音楽関連事業を展開する株式会社 LIVELIFE を経営しています。私自身は約 40 年前、両親の仕事の都合で苫小牧に移り住み、そこから現在に至るまで、この苫小牧で暮らしてきました。1993 年頃、15 歳だった私はロックバンドの世界観に憧れを抱き、その衝動が自らを突き動かし現在の職場を持つまでに至りました。そんな自分が暮らしていた当時のまちは、もちろん都会と比べれば不十分ではあるものの、ある程度の好奇心を満たしてくれるだけの環境は整っていました。中心市街地には CD ショップ、楽器屋、洋服店、飲食店、デパートも複数立ち並び、探究心を満たす物量もあった…そんな中で形成された感性や価値観は自分にとってとても重要なものであり、それはこのまちでの暮らしがあってこそその産物だったと思います。

自社が位置する現在の店舗に移ってきたのが 2009 年でしたが、その頃にはすでに駅前が栄えていた時代は昔話であり、その後も地域衰退は進む一方。現在大きな地域社会問題となっている駅前旧 egao ビル閉鎖についても、少し進展を見せたものの解決にはまだ長期の時間を要する見込みです。もしかしたら中心市街地はすでに役割を終え、現在は新たな時代に突入する転換期の真っ只中なのかもしれません。しかしそれでも、賑やかだった駅前を体験できた世代として、駅前の存在意義を捨て去ることはせずに、この活性の火が今後も継続していくことで、自分のまちを誇りに思うことの大切さを伝えていきたいと思っています。